

8日 火曜

ルカ



19:41 エルサレムに近くなったところ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、
19:42 言われた。「おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている。

19:43 やがておまえの敵が、おまえに対して壘を築き、回りを取り巻き、四方から攻め寄せ、

19:44 そしておまえとその中の子どもたちを地にたたきつけ、おまえの中で、一つの石もほかの石の上に積まれたままでは残されない日が、やって来る。それはおまえが、神の訪れの時を知らなかったからだ。」

19:45 宮にはいられたイエスは、商売人た

ちを追出し始め、
19:46 こう言われた。「『わたしの家は、祈りの家でなければならない。』と書いてある。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣にした。」

19:47 イエスは毎日、宮で教えておられた。祭司長、律法学者、民のおもだった者たちは、イエスを殺そうとねらっていたが、

19:48 どうしてよいかわからなかった。民衆がみな、熱心にイエスの話に耳を傾けていたからである。

イスラエルは不信仰の結果として、他国から侵略されましたし、この後もローマ帝国に蹂躪されました。その度に都であるエルサレムでは悲惨な出来事が起きたのです。イエス様は「泣いて」、この都とその人々を思ったのでした。

そのような不信仰の始まりは、神殿の状態に深く関わっていました。すなわち「祈りの家」であるはずのところ、**「強盗の巣」**のように、不正な金儲

けの場所になっていたのです。

神殿とは神様と民の接点です。礼拝の場所です。神殿で儀式は執り行われてはいましたが、民の信仰は崩れていたのです。私たちの礼拝のあり方、神様との接点のありかたはどうでしょうか。生きた神様の交わりとなっているでしょうか。生きた交わりとは、生活の中でみことばが生きているということです。それは行動をもたらし、成長し、また宣教へとつながってゆくものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

